

令和5年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線  
モアショロ原野地区の環境影響に関するワークショップ（第1回）

【 議 事 概 要 】

日時：令和5年12月21日（木）13：30～15：46

場所：とがち館 2階 鳳凰の間

《有識者構成員》

氏 名	専門分野	所属等
加賀屋 誠一（座長）	自然災害科学、都市工学	北海道大学 名誉教授
柳川 久	野生動物管理学	帯広畜産大学 教授
山本 純郎	鳥類	環境省シマフクロウ保護増殖委員
飯嶋 良朗	鳥類	日本野鳥の会十勝支部 監査
持田 誠	植物	浦幌町立博物館 学芸員
石垣 章	淡水魚類	十勝の生態系再生実行委員会 委員
澤村 寛	地質	足寄動物化石博物館 特任学芸員

欠席：柳川 久、山本 純郎、飯嶋 良朗、持田 誠

《オブザーバー》

氏 名	所属等
日比野 晃裕	環境省 阿寒摩周国立公園阿寒湖管理官事務所 管理官
深津 由紀子	北海道森林管理局 十勝東部森林管理署 統括事務管理官
佐藤 美波	北海道森林管理局 十勝東部森林管理署 技官
林 俊英	足寄町役場 経済課商工観光振興室 室長
岩淵 堅志	足寄町役場 建設課建設室 室長

《ワークショップ参加団体》

団 体 名	氏 名	備 考
帯広ウチダザリガニ・マスターズ	鏡 坦	
川と河畔林を考える会	高倉 裕一	
雌阿寒自然塾	岩原 榮	
十勝自然保護協会	川内 和博	

《帯広建設管理部》

氏 名	所属等
高橋 崇史	十勝総合振興局帯広建設管理部 事業室長
佐々木 昇	十勝総合振興局帯広建設管理部 事業室地域調整課 地域調整課長
谷 伸二	十勝総合振興局帯広建設管理部 足寄出張所 所長
佐々木 健司	十勝総合振興局帯広建設管理部 事業室道路課 道路課長
藤谷 明弘	十勝総合振興局帯広建設管理部 事業室道路課 主査（道路）
山口 秀人	十勝総合振興局帯広建設管理部 事業室事業課 主幹
米田 譲	十勝総合振興局帯広建設管理部 事業室事業課 主査（道路第四）
大村 佑太	十勝総合振興局帯広建設管理部 事業室事業課 技師

## ワークショップ意見交換

### 【緑化試験】

**鏡:** 37P、38P 緑化試験のオニアザミについて、外来種子の吹付でオニアザミが入っていて、張芝には入っていない。その理由は？

**ズコーシャ:** 張芝自体に厚さがあり、また全面が施工直後の時点で 100%近いイネ科草本での植被率があるので、アメリカオニアザミが基盤土壌から出てくることを防いでいることと、万が一週りに種子が入って来ても、既に草本で覆われているので生えさせないことがあげられます。

腐植酸種子については、吹付の厚さとして約 1.0cm から 1.5cm の厚さとなっています。基盤材や肥料等を入れたものにはなっていますがその厚さですので、基盤に根や種子がある場合は出てくる可能性があることと、芝と比べて初期段階で裸地の期間が少しあるのでそこに入って来る個体が活着してしまう可能性がある。一方で、来年度施工予定の完全な裸地状の部分については、腐植酸種子の吹付に比べて数倍のアメリカオニアザミが入っているので、腐植酸種子の吹付においても、ある程度のアメリカオニアザミの生育抑制効果は出てくるのではないかと現段階では考えています。

**鏡:** 確認ですが、吹き付ける種子にオニアザミが混じっていたという意味ではないのですね。

**ズコーシャ:** そういう事は一切ありません。完全に種子（オニアザミ）等入っていないような基盤材を使っていて、種子は北海道建設管理部の使用に準拠した種子のみを使っています。

**鏡:** 張芝の場合、将来的に基板の下にあったものが出てくるという事は考えられるか。

**ズコーシャ:** 今年追跡している感じでは、エゾシカによる食害とか基板が露出する状況は確認していないので、台風などで崩れるようなことが無い限りは、出てくる可能性は低いと現在考えています。

**加賀屋座長:** 38P のオニアザミですが、吹付の場合は、裸地の場合よりオニアザミの侵入は若干減っていると確認できますね。

**ズコーシャ:** 吹付の場合はやはり、厚く吹き付けられているので裸地の基盤よりそういうものが発生しづらいという事がこの結果から読み取れると考えています。

### 【防災関連】

**高倉:** 避難道路計画について、町と町民との間にどのような説明の場があったか、あるいは環境に配慮した計画について可能な範囲で、ワークショップで積み重ねられている情報公開が町民に対しどのようになされて来ているのか教えてほしい。

**足寄町:** 避難道路計画に関しての町民への説明という話と、今までのそういった事については、特段何か、例えば会議の内容について町民の方へご説明を町の方からしてるという事はないものと考えています。

**高倉:** 町民の避難道路についての関心は如何なものでしょうか。

**足寄町:** 現時点での話の内容がまだ議論している最中の話と理解していますので、途中経過

の話を町民の方へ説明することができるのかどうか、北海道（帯広建設管理部）の方と話さなければ分からないことだと思いましたが、いずれにしてもどこかの段階で北海道と話したうえで検討していくという事になろうかと思えます。

**加賀屋座長：**これは北海道の方の立場もあると思えますので、今現状でどのような考え方を持っているかお話しただけならと思えます。

**帯広建設管理部：**事業を最初に立ち上げた頃に、野中温泉には事業説明を行い、事業区間内には民地があり用地買収等も関係していますので地権者の方に説明はしています。広範囲にわたって町民に周知しているかということですが、自治体と会って話はしていませんが、私たちの事業としては北海道のホームページに載せていますので、そういう意味では周知しているということになっています。

**加賀屋座長：**具体的なことについての情報公開は、これからという話でよろしいでしょうか。

**帯広建設管理部：**ワークショップの内容については、ホームページで公開しています。ルート線形の検討をしているということについては公開されています。

**加賀屋座長：**ワークショップの内容は公開されていますか。

**帯広建設管理部：**はい。

**加賀屋座長：**全員がそれを見ているかどうかは分かりませんが、関心を持っていただける方はおそらく、情報公開がなされているということなので、そういったところを見ていただければ周知はある程度されているということですか。

**帯広建設管理部：**はい。

**加賀屋座長：**はい分かりました、そのような状態のようです。よろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは石垣委員、ワークショップメンバーとして何かございますでしょうか。

### 【ワークショップについて】

**石垣：**特になかったですが、先ほどオニアザミについて、鏡さんが話されていた同じ質問をしようと思っていました。あと、今日の開催ですが委員の方がもう少し出席されたら良かったと思えます。

**加賀屋座長：**そうですね、今日、参加者が少ないようで、なるべく参加できるような形の日程等を組んでいただければと思えます。これは事務局のほうにお願いしたいと思えます。それでは川内さんお願いします。

**川内：**ワークショップの内容は公開されているということで、実際インターネットではこの議事概要を含めて資料も公表されている訳ですが、我々に配られた資料“取扱注意”となっているのはどういうことなのか。

**加賀屋座長：**資料についてのご質問ですが如何でしょうか。

**帯広建設管理部：**口頭でも述べたのですが、資料3 別紙というのがありまして、“要保全対象生物の公開に関する基本的なルール”というのを設けまして、そういう野生生物、植物等に配慮して公開に規制をかけているため取扱注意という形をとっています。

**川内：**この資料そのものは先ほどのルールに則れば出してもいいのですね。我々も、私一人でやっている訳ではないので、役員に見せたりやっているのだけれど、と言って外に広がっ

ていく訳ではないのだけれど、かまわないのですね、先ほどの重要種というかそこらへん気にしなければ。

**帯広建設管理部：**ホームページには、今回お手元に配った資料をそのまま載せるということではなく、重要種のところを削っていたりとか、そういう内容で載せていますので、ホームページの内容についてはお話しされても問題ないです。

**川内：**ホームページに出るのはいつでしたか2週間後くらいですか。

**帯広建設管理部：**2週間以降の予定です。

**川内：**注意深くやります。

### 【車両規制】

**川内：**10Pの噴火レベル2になった場合の車両規制、“凄くあいまいでないか、具体性が見えない”ということの答えだと思いますが、検討するという話でした。

通行規制とか具体的にどうするのかという所はあまりよく見えない。前から言っていますように早いうちに車両を規制する。出させる、あるいは進入を禁止するということをすれば、いろんな所が非常にやり易くなると思っています。ぜひそこら辺のところを検討していただきたい。

避難路の確保ということで、“冬季通行止め区間の積雪10cmごとの除雪等”。よくわからないのだけれど、冬季間は通行止めにしてありますね、半年寝て暮らすようなもんですからね。それでも何かあったらそこは除雪するということなんですか、冬山に登っている人のためとか、その他に何かあるのですか、このへんがよく分からないので伺いたい。

**帯広建設管理部：**冬季通行止めについて、現在、モアショロ原野螺湾足寄停車場線とオンネト一線の一部については冬季通行止めをかけています。噴火レベル2になった場合は避難路の確保を、冬季通行止めですが10cm毎に除雪を行うということになっています。

**川内：**そうすると温泉のためと言って良いということなんですか。人がいないのでは、特に南側。

**帯広建設管理部：**噴火時に備えて、野中温泉自体は営業されていますので、そのような方たちのためというのもありまして、レベル2になった場合は除雪を行っている。

**川内：**レベル2になったら車は入れないということをぜひ検討していただきたい。

11Pの大型バス、中型バスもそうですけれど、乗り入れ規制をしてほしいということでありましたが、2つの担当課からこんな回答が来ることにびっくりしています。“当該箇所は他と変わらない一般道道で、特に狭小な道路ではない”という言い方をする。あるいは警察署も“特に狭い道路でもない”と言っているのですけれど、本当にそう思っているのですか。狭い道路だからなんだかんだ言われて、幅4mあるやなしやですよ。現に今計画路線になっている部分だって幅4mあるやなしやで、そうすると今の計画路線だって必要ないじゃないかという話になってくる。このすれ違いが大変だというのは、普通自動車どうしならすれ違える訳なんです、幅4mですから、実際に。ところが大型バスが来たらとんでもない話になる。皆さん経験したこと無いから大したことはないと思って言っていますけれど、私は経験しました。6月10日土曜日だったんですけれど、調査のために野中温泉のほうから走っていた訳ですが、最初の観光スポット的な第1待避所を過ぎて第2の待避所、メインのスポッ

トの所まで走っていた。多少のカーブがあるから先はあまり良く見えない訳だけど、あともう少しでメインスポットに着こうとしたら前から大型バスが来るではありませんか。すれ違えないんですよ。十数秒睨み合ってどうしようもないのでバックした。カーブをバックするのはなかなか大変ですよ。私の後ろに車は無かったから良いようなもんですけれど、ただひたすらバックを繰り返して第一待避所に着いた、こういう所があるんですよ。バスの運転手は何食わぬ顔してサーっと行きました。観光客はごめんねと手を振っていましたがね。これはちょっと大変ですよ。このようになったからと言って何処に訴えれば良いかと言ってもどうにもならない訳ですね。これは前から言っていますようにすれ違いは無理なんですよ。大型中型バスは2.5m幅くらいあるんですから、ですからぜひ大型バスの車両規制をしてほしいと思います。逆にそう言うとオンネット一線広げれば良いんだろうという話になってきますけれど、ここは第一種ですから。前から環境省も帯広建設管理部もそれやらないと言っている所なんですから、ここは規制をしっかりしてほしい。こんなふうには回答されて、どういうこと。一回、パトカーでも行ってみれば良いんですよ、あそこ行ってバックしてくれば良いんですよ。屈辱みたいな感じはありますけれどね。ここらへんも、もう、一つの国立公園の中の規制ということで環境省も是非お考えになっていただきたいと思います。

#### 【蘚苔類など】

川内：12Pですが、蘚苔類調査については私が言ったことかと思いますが、乙幡さんは再調査の必要はないと。それはそれで専門家はそうなんだと思いますが、ただここで2018年時の調査の時から新たにミズゴケ属が増えています。ゴレツミズゴケというものが出ている。これは指定種です。ですからそういった意味でも、もう少し細かいものをやってもいいんじゃないかと思いますが。専門家がやらなくて良いよと言うのなら、ああそうですかとなるかもしれませんが、そういうことがある、ということをお伝えしておきたいと思います。

前から思っていたんですけど、ヒカリゴケだけが妙に出されています。なんでヒカリゴケだけなのかという事がよくわからない。指定種の中ではヒカリゴケはあるけれどミズゴケ属も指定種に入っている。ミズゴケ属もこの中にはあるということで、何故ヒカリゴケだけが重要視されているのか分からないので、後でご説明があったらお願いしたい。

あと一つ忘れていたのですが、指定植物リスト出していただいたのですが、前回もおかしいなと思っていたのですが、今回もおかしい。改めて見たら、一番上に出てくるのがヒカゲノカズラの仲間なんです。ところが指定種はその上に蘚苔類がある訳ですよ。そこに蘚苔類のミズゴケ属それからヒカリゴケこれが2つその上にある、その上にさらにマリモがある。だからヒカゲノカズラは、4番目なんです、その上が抜けているんですよ。先ほどから言っているヒカリゴケはある。ミズゴケ属もある。どちらもある。何故かヒカリゴケだけが重要視されている。はじめ第1回のワークショップで、ヒカリゴケは有名だという程度で思っていたんですが、改めていろいろ調べていたらミズゴケ属だって重要という事が分かった。ミズゴケは湿原の周りだとか言われますが、ここで乙幡さんにしゃべっていただければ一番わかりますが、ここにおけるミズゴケというのはやはり高山性の重要なミズゴケばかりなんだというようなことであります。私も直接うかがいましたから。

ズコーシャ：こちらのリストは維管束植物だけで作成しています。改めて修正はさせていた

だきたいと思います。あとミズゴケの件に関してなのですが、いつも風穴とヒカリゴケという視点で保全を考えてきた経緯はありますけれど、一方、風穴地帯は乙幡さんの見解もミズゴケが見られる環境は風穴を中心にとしているのそこを避けて道路施工するのが良いというような意見をいただきまして、それを勘案しながら、極力風穴を避けるというような考えで進めてきた経緯があります。本日出席することができなかったのですが、持田構成員のほうから、アカエゾマツ林の林床全体を守れることは理想ではありますけれども、現況としてはそういう群落単位で守れるようなきまりがないので、やはり風穴を代表してそれを単位に保全を考えていくのが良いのではないかという事で進めてきているというご意見をいただいています。

### 【計画ルートについて】

川内：現道路に関して過去の第1案・第2案・第3案を含めてたくさん出していただいて、細かいところは後ろにも出ていますが、指定植物までの細かいものは実は初めて見るというところで、ですからそういうものを、私はいろいろなものを出してほしいなというところがあります。

これについては少なくとも第2種の所のものについては現道と並走して林内で開削していますけれど、それが計画案ですけれど、やはりこれは考え直してほしいなと。これは前から言っているように、内部の部分のアカエゾマツ林床の中に大変な種類の蘚苔類があるということです。指定植物のミズゴケ属がかなり広がっている訳です。風穴の話は今回出ていませんけれど風穴についてもある訳です。ですからそういったような所をわざわざ広げるのかということをもう一回ぜひ考えてほしいと思います。

私、実際に10月末あたりに1.2kmくらい、上のゲートの所からヘアピンくらいの所まで歩きました。そして幅を調べました、測定しました。そうしたら一番上のゲート間は、8mはある。もちろん砂利道は4m幅くらいですけれども、左右の余裕を見たら8mくらいはある訳ですね。ずーと下がって行って6mから7, 8mあるところが多い。もちろん途中狭いところもあるわけです。それはここにも書いてあるようすけれども、70mくらいですか、下っていけば右側に螺湾川が直ぐそばまで来ている。左側は凹地になっているところがある。ここらへんもそれなりに整備すれば、内部を整備するよりははるかにお金もかからないじゃないか。いろいろな工法上のことも今日新たに入っていますので帰ってから精査させていただきます。現道をしっかり整備すれば、少なくとも第2種の所については、ヘアピンの所までですね。そもそも環境省が小委員会ですら答申を出した時には、今でもスライドが出ていますが、スライドを見たら現道の絵を出している。ここはシラカバ2次林だ、それで影響はあんまりない。というようなことを言っている。まず環境省自体がこの現道を整備するという頭だったんじゃないか、と思うんですね。それについて環境省釧路事務所に聞きましたけれども、あまりはっきりしない形になりました。要は、シラカバ2次林なんて言うのは現道のそばの話です。内部に行ったらシラカバはあるわけではない、ダケカンバ、ウダイカンバはあってもね。広い意味で2次林と言えばアカエゾマツは過去に択伐されているからそうでしょうけれど、環境省の考えていることとは全然違うということでもあります。

ここら辺はぜひもう一度立ち止まって考えていただきたいなと思います。現代の世の中

でわざわざ伐採する、脱炭素だSDGsだというふうなことで、そんな時にわざわざ伐採するなんて話、これは後々の世代がなんじゃこりゃという話になってきますよ。もう少し慎重な、万全を期すような、分別のある、そう言ったような考え方で一度止めて、少しも悪いことではないと思います。一度止めてもう一回考え直していただきたいなと思います。新たにいろんな調査とか再検証の中でいろんなもの出てきていますから、そういったものを新たなものとしてやっていった方が良くかなと思います。これについてはもう少し調べさせていただきたい。

**加賀屋座長:**今回出されたルートを検討では、現道最大限活用案ということでもう少し詳しく説明していただければと思います。重要種とか公園指定種、消失箇所とかが、かなり現道の場合多いということで、先ほど川内さんがお話しされた所が、現道があまりもう環境を傷めないで済みそうだというお話があったので、その辺のこのデータと先ほどのコメントの関係で、もしあれでしたらこの現道ルートと現計画で、補足で説明していただければと思います。

**帯広建設管理部:**最初の道路計画ルート検討ということでお話し申し上げまして、資料としては60Pになっているのですが、各案の中で今までやってきたルートが一番、改変面積が少ないという結論が出ているのですが、そこで、迂回路の設置の必要性というのがネックとなっていて、60Pの図面を見ていただくと、一案と二案は現道に近い道路を作るうえで、迂回路を設けなければいけない。その、迂回路と言うのは青く示したルートです。現道を拡幅するのにも、車を通しながら現道を使うのが困難なために、青い迂回路を作らなければいけない。その場合に改変面積も大きくなりますし、重要種の消失数も増えてしまうということです。

**加賀屋座長:**迂回路をつくるためにこの部分が影響を受けるということだ、ということです。それについて川内さんはどうお考えですか。

**川内:**おそらく迂回路の設置なんだろうなと思っていましたが、迂回路は必要なのか、あそこを全面的にとりあえずは通行止めにすればいいんですよ。工事にあたっては片側通行の部分とか、そういうことってやれるんじゃないんですか。できないんですか。わざわざそんなもの作ってというか、とにかくあそこ一回、中を歩いたほうがいいですよ、皆さん。歩いたかどうか知らないけれど中というのは森の中ですよ、あそこをよくこんなに剥がすなと私は思います。もうちょっと知恵があるんじゃないのかなということがあります。あとヘアピンから先のことを心配する人がいるかも知らないけれど、基本私はヘアピンも整備すれば良いなと思います。それでも噴石が飛んでくるという状況までいつまでも引っ張るなというところあります。ヘアピンについて言えば思い切ってショーカット的な橋を作るとか、といったほうがむしろお金はかからない全体から言えばというような事は私は思います。切土盛土でかなりの開削をずーっとする訳ですよ、これはかなりのお金が掛かるんじゃないですか、15億円と言っていますけど、そういうのも考え直していただきたいなと思います。あそこは第2種の国立公園ですよ、特別区域ですよ、何のために第2種にしているのか、ということは何回も訴えたいと思います。

63, 64, 65, 66の図の中で、四角とか赤とか青とか丸とかポツンポツンある。これは何なんですか。

**ドーコン:**図面上に書いている、星とか三角とかで記載されて、紫で書いているのが重要種

がある位置で、黒で書いている記号のものが公園指定種の位置となっています。

**加賀屋座長**：これを拾って先ほどのデータが出来た訳ですね。よろしいですか今の説明で。ほかに何か。

**帯広建設管理部**：先ほど川内さんからありました、工事中に通行止めができないかという内容なのですが、避難路の事業ということで、基本的に通行止めをしないで共用しながら施工するという事にしておりますので、通行止めはできないという事になっています。

**加賀屋座長**：避難路ですね、こと避難路は止めることはできない。ということですね。

**川内**：通行止めしなくてもできるような何か知恵はないんですか。通行止めをせずに、何とか片側通行とか、片側通行するには狭いとかなるかもしれないけれど、できないんですか。

**加賀屋座長**：それも避難路だからできないですね。普通の道路だったらあれだけれど、避難路は最大限完全に通さなければいけないということがある。

**川内**：噴火する段階までまだ工事をやっているんですか。さっさと皆逃げればこういう問題は起きないですよ。

**帯広建設管理部**：御岳山の噴火がありまして、御岳山の場合は急に噴火して亡くなったという事例もありまして、そういったこともありますので、あらかじめ逃げるという事ではなくて、噴火したときに避難ができることを考えていますので。

**川内**：ただあの時は 24 時間体制ではなかったでしょ。今のここは 24 時間体制だし。これは建設管理部の話ではなく違う別のレベルの議論かもしれません。

**加賀屋**：次回に避難路の建設、どうしても考えておくべきだということがあれば調べていただいで出してもらえればと思います。たぶん私も避難路は特別扱いせざるを得ないのかなと思いますが、私もそういう関係のことやっているのだけれど、そこまで避難路について特別な決まりなどは私も見てみたいと思いますけれど、たぶん避難路は最低の場合通さなければならぬと、しかも人が通るのではなくて車で通さなければいけないということは調べていただければと思います。

## 【オンネット一の地質】

**川内**：風穴について言いますと、外のワークショップでの澤村さんのお話、大変勉強になりました。その中であそこの玄武岩質というような溶岩、阿寒富士からの溶岩ということであらためて確認できたかなと思っていますけれど、玄武岩溶岩だからといって風穴は無いという話ではないんだろうなと思うんです。いろいろと調べさせてもらったけれども、例えば富士山の有名な青木ヶ原というのは玄武岩溶岩で粘性が低くて流動性が高かったということでも有名ですけど、21 本の溶岩トンネルがあるということです。我々がイメージする然別湖のような、あの周辺のような風穴とまた違ったスタイルのものがあるんだろうというようなことですので、調べていただきたい。また、今回ボーリングの話は出ていませんでしたので、ボーリングの調査などの結果をぜひ出していただきたいと思います。以上です。

**澤村**：先ほどの経過報告にありましたように 10 月 21 日に現地の観察会をやりました。そこで話しました資料全部はありませんけれど、本日の資料のいちばん最後のところに地形図が 2 枚あります。一番最後から 2 枚目は普通に販売されている 5 万分の一でも見えますし、ネット上でもこの地図は見える訳ですけど、いちばん最後の細かい、範囲が限られて

いる所だけ、等高線が随分ぐにゃぐにゃ曲がっています。これはご存じのように現地に行きますと、数メートルから数十メートルくらいの大きさを凸凹している訳ですけど、それが反映されている図だと思って見えています。現地は、普通の教科書に出てくるような玄武岩の溶岩の表面が凸凹を超えた大きさの凸凹があります。それだけ見ていると、玄武岩じゃなくて安山岩がつくる塊状溶岩と表面が似ているんですね。玄武岩で出来ている地質と今回の地形があわないので、専門家に確認されたほうが良いのではないかと申し上げました。あそこの玄武岩の溶岩の表面は凸凹だけけど、露頭で見るときちんとした層状に流れた溶岩があるので、塊状溶岩という表現はやめて、玄武岩の溶岩というだけで良いというふうに、地質研究所の연구원の方がおっしゃったということで、懇談会での表現が途中から変わっています。

もう一つは川内さんのお話で、溶岩トンネルということをおっしゃいましたが、溶岩トンネルはここでは多分無理だと思っていて、青木ヶ原では大きな富士山の溶岩の流れと別に斜面の途中あるいは麓に近いところから小さい溶岩の噴出がありまして、そこで溶岩のトンネルが出来ているんじゃないかと思っていますけれども、そういう構造はここでは今のところ、川内さんほど歩いてはいませんが、何回かあの辺を見た限りでは無いかなという印象です。そんなことで風穴という言葉についても途中から使われなくなっていますけれども、どれぐらい空洞があって冷たい空気が出てくる、そういうことについても、きちっと観察したほうが良いんじゃないかという気もしております。もし機会があれば植物の調査の資料をいただいたりして、場所を何人かで見てみたら良いではないか、そんな気はしております。どっちにしても、勉強会の時に言いましたが、ルートのパワーポイント調査の数が少ないという印象を持っています。もう少し狭い範囲で実際、中の構造がどうなっているかをどこかで確認しておいたほうが後々良いのではないかという印象を持っています。

**加賀屋座長：**ありがとうございます。今のご意見につきましては、今後いろんな形で検討できるかどうか、少し検討していただければと思います。